

豊国筆塚碑 (柳島妙見宮境内)

(文政十一年(一八二八)八月 四方真顔撰・山東京山書・窪世祥鐫)

一陽齋歌川豊国、本姓は倉橋、父を五郎兵衛と云へり。宝暦の頃、芝神明宮の辺に住し、木偶彫刻の技業を以自ら一家をなせり。曾て俳優の名人、市川栢筵の肖像を作るに妙を得たりき。明和の初こゝに豊国を生り、幼名を熊吉と称す。性、画を嗜が故に、歌川豊春に就て浮世絵を学しむ。依て歌川を氏とす。頗出藍の才あり。長に及で俳優者流の肖像を画に妙を得て、生氣活動神在が如し。或また美人時世の嬌態、梓本細筆、諸国流行し、華人蕃客も珍とし求む。茲を以、一陽齋の号、日の昇るが如なり。豊国の名一時に独歩し、画風自ら一家を成し、朱門の貴公子も師とし学ぶ。門人画業の徒に於て良才乏しからず。実に近世浮世絵師の冠たり。惜哉一陽齋、享年五十七歳にして歿せり。時に文政八年酉正月七日なり。三田聖坂弘運善寺に葬る。法名を実彩靈毫と云、遺愛の門人等、一陽齋の義子今の豊国と量て、亡師の遺筆数百枝を埋て、碑を営み、亡翁の友人等も為に力を助け、桜川慈悲成子をして余が蕪辞を需む。余もまた亡翁の旧識たりし故に固辞する事あたはず。其事を記て其乞に答ふ。

文政十一年戊子仲秋

狂歌堂四方真顔撰

窪世祥鐫

山東庵樵者京山書并篆額

(碑陰) ※(赤字)は『浮世絵編年史』所収のデータ

地本問屋仲間中 団扇屋仲間中

歌川総社中 国文(国政) 国長 国満 国貞 国安 国丸 国次

碑宮連名 国照 国直 国信 国芳 国忠 国種 国勝

国虎 国兼 国武 国宗 国彦 国時 国常(国幸)

国綱 国蔵(国久女) 国為 国宅 国英 国景 国近

二代目豊国社中 国富 国朝 国久女 国春 国弘 国重

国盛 国鶴 国道 国一 国興

国貞社中 貞虎 貞房 貞景 貞秀 貞綱 貞幸 貞孝

貞歌女 貞久 貞信 浪花貞広

国安社中 安信 安秀 安重 安春 安道(安常) 安清 安峯

(安重なし)

国丸社中 重丸 年丸 輝久(輝人)

国直社中 ※人名なし

国信社中 信徳(信清) (清一) 信房 信与喜 信貞

国芳社中 芳春 芳信 芳房 芳清 芳新(芳影) 芳勝

芳忠(芳見) 芳富

国種社中 種繁 種政 種清 種景 種信

国勝社中 勝重 勝信 勝秀 勝芳 勝政

国武社中 武重 武光 武虎

国宗社中 ※人名なし

国宅社中 ※人名なし

二代目一璞齋歌川豊国

(此余之社中不係碑宮者不題其名)